

ひのし【火熨斗】



炭火を入れて、その熱により布類のしわ伸ばしや仕上げに用いる道具。多くは真鍮（しんちゅう）製で、底が平らな円筒形の鍋のような形をしていて、柄がついている。中に炭火を入れて布に底を押しあて、洗濯後のしわや裁縫のあとの仕上げに使用した。平安時代には、同じものが貴族の布団を温める道具として用いられたという。この火熨斗のあとを受けて火アイロンが登場した。これも炭火を入れて使用したが、現在のアイロンのような形をしていて、ガスを抜く煙突がついていた。これらは電気アイロンの普及によって姿を消した。

編集後記

■表紙の写真は、浦幌小学校の入学式です。お兄さんお姉さんの演奏にあわせ元気に入場していました。

■取材で人前で写真を撮るのはとても緊張します。最近ちよつびり撮る楽しみがでてきました。出来たものはブレていたり、顔が見えなかったり：現実にはキビシイです。今回の広報はたくさんの方のご協力のおかげで発行することができました。まだまだ至らぬところが多いと思いますが、今後ともよろしく願います。

（井）

■掲載された写真は、差し上げますので（本人または家族）お気軽にご連絡下さい。